

## 分科会2 男女共同参画の取り組みの成果と今後の展望 —育児からの復帰支援事業(特別研究員RPD制度)—

日本動物学会(藤原宏子・日本女子大・hirofujiwa@fc.jwu.ac.jp)、  
研究者のワークライフバランスWG、大規模アンケート調査のフォローアップWG

### JSPS Research Fellowships for Young Scientists RPD: Present and Future

*the Zoological Society of Japan,*

*the Work Life Balance WG, the Follow-Up of the Questionnaire WG*

Abstract: Research fellowship RPD aims to support restart of research activities by young scientists who have left the research because of their children. This system was established in 2006 as a part of efforts of the Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMWSE). We review this system and explore future perspectives on activities of EPMWSE.

#### <企画概要>

2002年に学協会連絡会が発足してから現在までの10年間で、連絡会の活動はいくつかの成果をあげてきました。この分科会では、これらの成果のうちRPD制度にテーマを絞り、これまでの男女共同参画の取り組みを総括し、この取り組みを未来へつなげていくために議論や意見交換を行いたいと考えています。

日本学術振興会特別研究員RPD制度—優れた若手研究者が、出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰できるように支援するためのフェロシップ—は、学協会連絡会の活動の成果として、2006年に創設されました。まず初めに、RPD制度の創設を提言された平田たつみ先生から、「RPD制度はどのような制度か」、についてお話を伺います。次に、第2回大規模アンケート(2007年実施)調査について、RPDに注目した解析結果を江尻晶先生に伺います。この解析は、男女共同参画学協会の2つのワーキンググループ(以下、WG:研究者のワークライフバランスWGと大規模アンケート調査のフォローアップWG)が、最近行ったものです。そして、実際に支援を受けている、日本学術振興会RPDのお二人の若手研究者に体験を伺います。お二人の(さらにはフロアにおいでRPDの方々の)生の声を伺うことにより、支援がどのように生かされたかを知り、今後はどんな支援が必要なのかを探ります。

#### <プログラム>

1. 私が RPD 制度に期待したこと: 平田たつみ 国立遺伝学研究所
2. 第2回大規模アンケートの再解析に見る RPD 支持層: 江尻晶 東京大学
3. RPD支援を受けて:
  - 1)中谷友紀 東京工業大学
  - 2)伊藤洋 総合研究大学院大学
5. 総合討論

#### <資料: 第2回大規模アンケートの再解析に見る RPD 支持層>

2007年に実施された「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」[1]において4つの施策、「育児からの復帰支援事業(特別研究員 RPD 制度)」、「女性研究者支援モデル育成事業」、「女子中高生の理系進路選択支援事業」、「女性研究者の採用の数値目標」の認知度と支持の度合いを調査し、その解析結果が報告されている[1]。今回、上記4つの内特に RPD について再解析を行ったので、その結果を報告する。

アンケートでは、RPD 制度の賛否について複数回答で問うている。この回答について以下のように数値化する。すなわち、+1:有意義である、+1:拡大・推進するべきである、-1:あまり意義がない、-1:弊害がある。各回答者の回答は-2~-2の数値をもち、これを RPD 支持度とする。図1に男性女性での RPD 支持度の割合を示す。

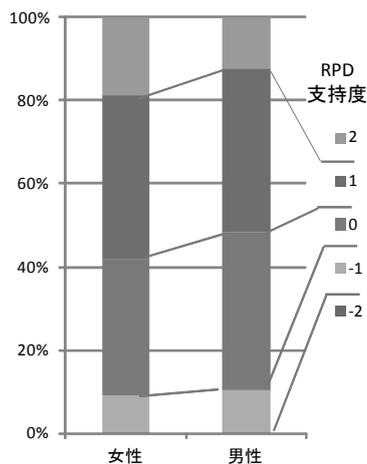


図1：男女別、RPD支持度の割合

この支持度を各種分類で平均し、支持度・支持層を調べた。

図2に年代に対する依存性を示した。

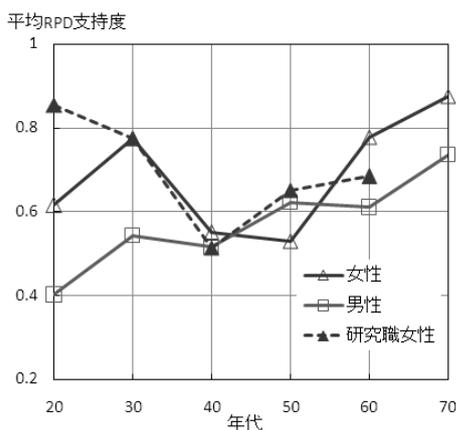


図2：年代別男女別 RPD 支持度。ただし、女性研究職の場合を点線で示した。

男性では、年齢とともに支持度が上がっていくのに対して、女性では、出産年代に別のピークがあるように見える。

図3に職タイプ別の支持度を示す。研究職は技術職よりも高く、これは、RPD制度が研究者を対象としているからだと考えられる。この差は、概して男女間の差より大きい。また、図2の年齢に対する依存性と退職者の支持度が高いことは、両者の相関を考慮すると矛盾しない。

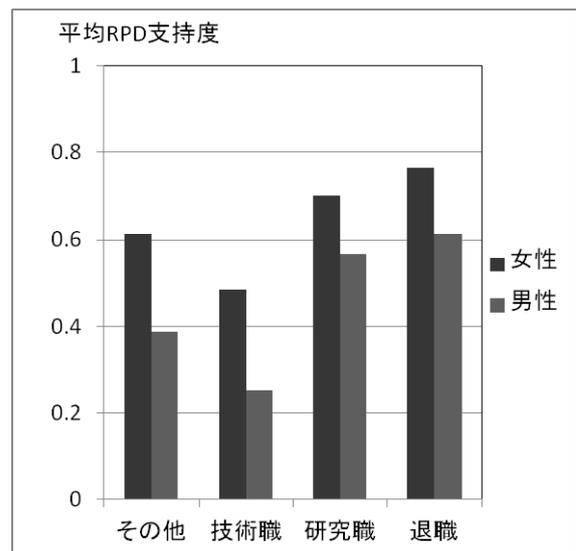


図3：職タイプ別男女別 RPD 支持度。

年代や職タイプに対する依存性の他に、PDで支持度が高いこと、配偶者有で支持度が高いことが分かった。

RPDの有資格者となることが多い若い年代の研究職の女性で支持度が高いことは、利益享受の可能性を考えると当然のことである。このことは、逆に言えば、男性、技術職、40歳、50歳代、配偶者無で支持度が低くなることも符合する。一方、退職者、高齢で支持度が高い理由は不明確である。

#### <参考文献>

[1] 男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」2008年7月。

#### <企画担当者>

日本動物学会：藤原宏子(日本女子大学)、日下部岳広(甲南大学)、佐藤恵(日本大学)、箕浦高子(中央大学)  
 研究者のワークライフバランスWG：江尻晶(日本物理学会・東京大学)、ジョン・フラナガン(日本物理学会・高エネルギー加速器研究機構)、澤田美智子(日本動物学会・産業技術総合研究所)、日下部(日本動物学会)、佐藤(日本動物学会)、箕浦(日本動物学会)  
 大規模アンケート調査のフォローアップWG：原田慶恵(日本生物物理学会・京都大学)、由良敬(日本生物物理学会・お茶の水女子大学)